

普通期水稻における側条施薬機による側条施用の防除効果

普通期水稻移植時に側条施薬機で薬剤処理を行うと、育苗箱施用と同等の防除効果が得られる

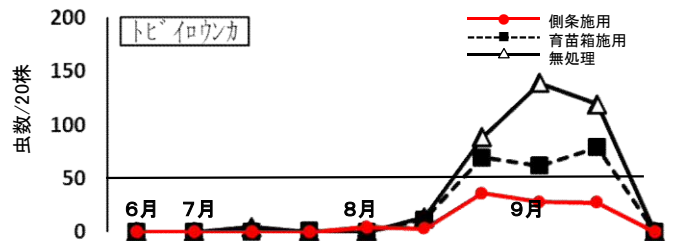
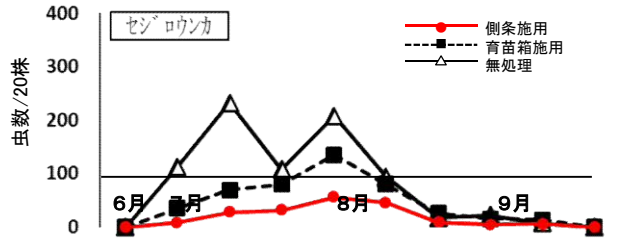
背景・目的

- ・「高密度は種による密苗栽培技術」では育苗時の低コスト・省力化を期待できるが、育苗箱施用の殺虫効果の低下が懸念
- ・移植時に田面へ薬剤を投下する側条施薬機が開発されたことから、側条施用による防除効果の解明が必要

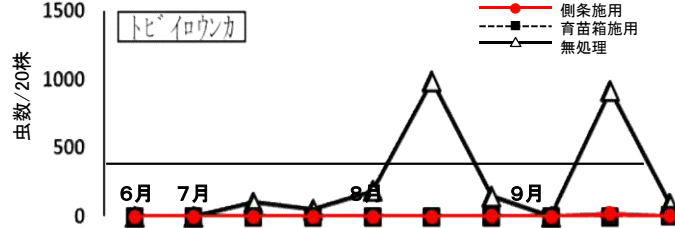
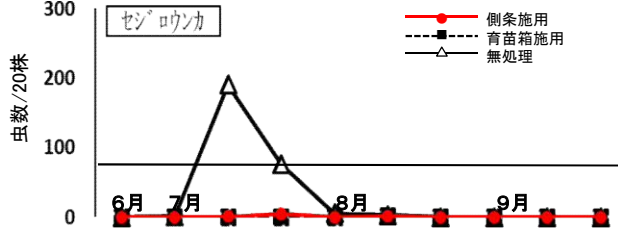
成果の内容

3殺虫成分とも、側条施用と育苗箱施用の防除効果は同等!!

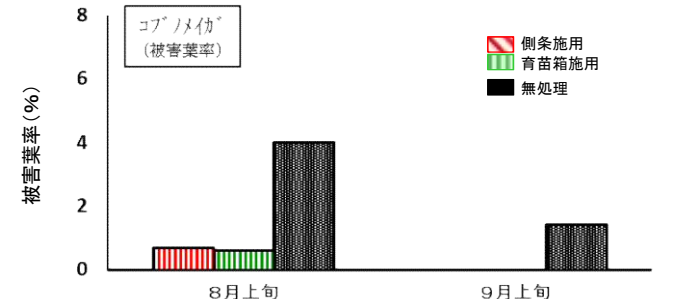
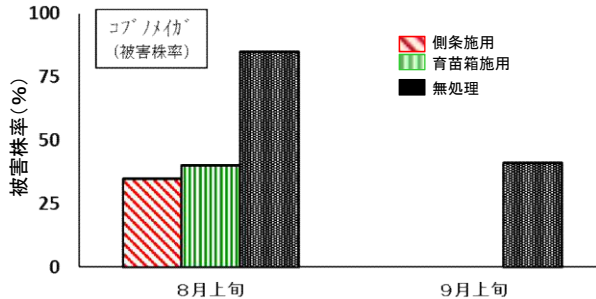
【ピロトリン剤の防除効果】



【トリフルメゾピリム剤の防除効果】



【クロラントリプロール剤の防除効果】



期待される効果

- イネウンカ類, コブノメイガによる被害を育苗箱施用と同等に低減
- 普通期水稻の生産量の安定化
- 育苗箱施用に要する作業時間が不要



側条施薬機(赤線内)による側条施用

※写真提供: ヤンマーアグリジャパン株式会社

○普及対象・範囲
普通期水稻生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部 病理昆虫研究室
(環境と調和した栽培技術確立事業)